次世代の庄原をつくる学校教育と小規模校の在り方

質問議員：堀内富夫

対象議会：2026年9月定例会 一般質問

議事の再開

【桂藤議長】

休憩前に引き続き会議を再開します。次の質問に移ります。堀内富夫議員。

1. 総合教育会議における小規模校の協議と市長部局の視点

堀内富夫議員

議席番号4番、会派里山未来クラブの堀内富夫です。議長のお許しを得ましたので、通告に従って質問をさせていただきます。私としては大項目で1点、次世代の庄原をつくる学校教育についてお伺いします。

庄原市立学校適正規模適正配置基本計画において、比和、総領、高野の各中学校において今後の在り方が検討されております。令和8年5月1日現在、3校を合わせた生徒数は現在56名であり、小規模校が抱える教育上の課題については認識しているところでございます。

一方、人口減少が進む中にあっても、庄原市で育つ子どもたちに良質な教育環境を持続的に確保していくことが必要であります。そのためには、児童生徒数の規模だけではなく、少人数教育の特性や地域固有の自然、文化、歴史、産業等を生かした特色ある学びの可能性についても評価する必要があると考えております。

また、こうした特色ある教育を希望する児童生徒に広く学びの機会を開く方法として、小規模特認校制度などの活用も選択肢の一つとなり得るのではないでしょうか。学校を単に地域に配置された教育施設としてではなく、地域に蓄積された知を生かし、次世代を育てる教育拠点として捉える視点も重要であると考えております。

令和3年6月の庄原市総合教育会議では、当時の市長からの提案を契機として、庄原市立学校適正規模適正配置基本計画の見直しが行われた経緯があります。今後の学校の在り方についても、教育委員会のみならず市政全体の視点から検討する必要があると考えております。そこで、人口減少下においても庄原市の子どもたちに良質な教育を持続発展させていくとの観点から、以下についてお伺いします。

1、比和・総領・高野中学校を含む小規模校の今後の在り方について、総合教育会議ではどのような協議を行っているか。また、直近の開催状況及び議題と合わせて、市長部局と教育委員会が将来の本市における教育環境をどのような視点から検討しているのかをお伺いします。以降の質問については質問席にて行います。

【桂藤議長】

答弁、市長。

【八谷市長】

ご質問にお答えをいたします。庄原市総合教育会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正に伴い平成27年に設置し、市、市長部局と教育委員会が本市の課題やあるべき姿を共有し、相互に連携を図りながら効果的に教育行政を推進するための協議や事務調整を行っております。

開催状況を申し上げますと、令和7年度は3回開催し、庄原市教育大綱、第3期庄原市長期総合計画及び第3期教育振興基本計画の策定状況等について報告し、意見交換を実施いたしました。小規模校の今後の在り方につきましては、令和3年以降、議題としては取り上げておりませんが、次代を担う児童生徒の教育施策に関しては、総合教育会議の場以外においても多様な場面で教育委員会と議論・協議を継続しております。

なお、将来の本市における教育環境につきましては、教育委員会での議論・検討を見守るとともに、必要に応じて総合教育会議や様々な場面を通じて協議・調整を行いながら、本市にとって魅力のある最適な教育環境の実現に努めてまいります。

【桂藤議長】

堀内富夫議員。

堀内富夫議員

昨年度、令和7年度においても3回協議をされているというところで、積極的に市長部局側でも教育に関してかなり協議をされているんだなということが分かりました。その中で、当然将来こんな子どもを育てたいというゾーンに関しては教育委員会の方でビジョンを掲げていらっしゃると思いますが、市長部局側、政策側ですね、まちづくりという観点からですね、子どもたちにどういうふうに育ってほしいというビジョンがありましたらお聞かせください。お願いします。

【桂藤議長】

答弁、政策企画課長。

【政策企画課長】

ご質問にお答えします。まちづくりの視点での教育環境というような質問でございます。現在、第3期の庄原市長期総合計画、またピースフルの5つのリーディングプロジェクトでも人材育成と掲げており、協議しておるところですが、今後も教育委員会での議論検討を見守るとともに、必要に応じて総合教育会議など様々な場面を通じて協議調整を行いながら、本市にとって魅力ある最適な教育環境の実現に努めていくよう考えているところです。

【桂藤議長】

堀内富夫議員。

堀内富夫議員

はい。ぜひですね、子どもたちが育つ環境、その環境を作っていくのはどうしてもやっぱり市政側の方でしっかりとまちづくり、環境づくりをしていかないといけないというふうに考えておりますので、

そのあたりの整備というのも教育という観点からもしっかり協議していただけたらなというふうに考えております。次の質問に移ります。

---

2. 小規模校の特色ある教育の評価と、学校の在り方の判断要素

堀内富夫議員

小規模校について、児童生徒数の減少による教育上の問題だけではなく、少人数教育の特性や地域固有の自然、文化、歴史、産業等を生かした特色ある教育を行う可能性について、教育委員会としてどのように評価しておられるでしょうか。また、教育的価値を今後の学校の在り方を検討する際の判断要素としてする考えはあるかをお伺いします。

【桂藤議長】

答弁、教育長。

【牧原教育長】

ご質問にお答えします。本市の各学校では、学校の規模にかかわらず、全ての学校が学習指導要領を踏まえ、本来身につけなければならない学力や体力をはじめ、コミュニケーション能力や社会性などの非認知能力、豊かな心の育成など取り組みを進めています。そして各学校は定期的に実践に対する評価を行い、保護者や学校運営協議会へ報告するとともに、改善策を提示し、さらなる充実を図るよう取り組んでいます。

また、総合的な学習の時間やキャリア教育、特別活動や学校行事等において、地域の資源を生かしながら特色のある教育活動を実施する中で、児童生徒一人一人に必要な資質能力の育成を図っています。こうした取り組みは、ふるさとへの思いが深まり、有効であると認識しています。

庄原市立学校の在り方の検討に当たっては、こうした地域のさまざまな資源を生かした学びも含め、市全体を俯瞰しながら、総合的に検討することになります。

【桂藤議長】

堀内富夫議員。

堀内富夫議員

今お答えいただいたとおり、小規模であろうが、地域に根差したものをしっかり学びに組み込んでいただいているということが汲み取れる答弁だったように思います。第3期の教育振興基本計画を見させていただきまして、このふるさとの学びを原動力として高い志を持ち続け活躍できる人材の育成、これには非常に共感するところでございます。

ただ、どうしても小規模校、小規模校といいますか、各学校によっては超小規模校といってもいいようなところもあると思います。それについて人数が減っているという事実は、もうこれは受け止めないといけない部分があると思います。そのあたりに関して、その人数、これがどのくらいまで減っても大丈夫とか、このくらいまでは強要できるであるとか、これ以上はちょっとこれから行おうとしている教育に支障が出るであるとか、そういう検討はされているのかお伺いいたします。

【桂藤議長】

答弁、教育指導課長。

【教育指導課長】

ご質問にお答えをいたします。その人数の規模等についてどうかということのご質問ですが、現在、国の方でも次期学習指導要領の改定に向けて、中央教育審議会特別部会の論点整理の中で、現行の学習指導要領が目指している主体的・対話的で深い学びの実装や多様性の包摂などが、次期学習指導要領に向けた基本的な考え方として示されています。現在、主体的・協働的な深い学びを目指して、様々に学習形態も工夫をしながら、その時間の授業の狙いを達成するために工夫を重ねているところです。

一方で、文部科学省の公立小学校、中学校の適正規模、適正配置等に関する手引きの中で、いわゆる学級の児童生徒数があまりにも少ない場合、班活動やグループ分けのパターンや協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じるということも指摘をされているところです。

ある程度の人数がいれば、例えばグループ学習で4人グループで課題解決に向けて話し合いをしたり練り合いをするような活動ができたり、あるいはペアであってもお互いの意見をするというような、ある程度人数がいればそういった少人数の学習形態も狙いの達成に向けて様々に空合して指導を現在しているところですが、人数が議員おっしゃるようにあまりにも少ない場合、そういった学習形態が固定化される、場合によっては先生と子どもとの対応というようなところで、なかなか子ども同士で思考を深めるとか、考え、また違った意見を交わし合うというようなところの議論の練り合いが難しくなるというようなところで、ある程度の一定の規模、人数というのは必要だというように考え、現在検討会の中で話をしているところです。

【桂藤議長】

堀内富夫議員。

堀内富夫議員

まさしくそのように思うんですが、やはり人の人数というか、様々な人の意見というのがありまして、それが人数逃げかけ固定化してしまいますと、どうしても考え方に偏りが生じてしまうという恐れがあるというところは認識しているところであります。そのためにそれを回避するためといいますか、これから複雑な社会に出ていくためには、様々な考え方を共有し議論しができる人間に育っていくという教育課程が必要かなというふうには思っております。

ただ、その上で、地域に存在する地域の知財といいますか、そこにこれまで積み上げられたものというものがいかに教材として使われていくかというところも重要な点になってくると思います。このあたりの人と人との対話、そこの協議、そしてその地域に存在する地域教材といいますか、そういったものの兼ね合いといいますか、そのあたりのバランスをどのように考えていらっしゃるかお伺いいたします。

【桂藤議長】

答弁、教育指導課長。

【教育指導課長】

ご質問にお答えをいたします。地域の資源等々のどういった活用の仕方というか、有効な学びに生かせるのかというような点でのご質問だと思いますが、現在も市内各学校それぞれ地域の実態等を踏まえながら、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図り、教育課程を組みながら実践を行っているところです。

当然、児童生徒が各教科や領域、行事等の狙いをよりよく達成するために、場合によっては地域に出かけて実際に様々な体験活動、そういったものも効果的に取り入れたりする学習、学びを展開しているところです。

それぞれ庄原の地域には本当に価値のある資源というのがありますと、議員がおっしゃるように、いろんな文化等に詳しい、そこの地域のことに精通された人であるとか、あるいは地域特有のものであったり、行事等のこと、いわゆる人、もの、ことというのがあります。そういったところの有効性をしっかり確認をしながら、その子どもたちにつけたい力がしっかり育成できるのかという視点に立ったときに、そういった地域の資源をしっかり有効利用していく、効果的な活用を図っていくというのはこれまでもやっているところですし、これからもそういった意味で、ふるさとの学びというようなところにしっかり着目をしながら、深い学びの実現に向けて教育課程を組み、授業の実践を深めていきたいというふうに考えております。

【桂藤議長】

堀内富夫議員。

堀内富夫議員

まさしく今それを実践されているのだというふうに感じてはおります。今回の議論に関してはですね、小学校、中学校、義務教育あると思いますが、今回は中学校に関してお伺いを立てているところでございます。中学校に関してですよね、先月号の広報庄原のところで提示されていましたとおり、今後10年先、なかなか人数が厳しいというところはあると思います。この先どうしても一つにまとめないといけないとか、統合しないといけないという場面になったときに、今やっていらっしゃる地域の資源の生かす学習というのをどういうふうに担保するのかというのを、今の時点で何か議論のテーブルに上がっているものがあったらお聞かせください。

【桂藤議長】

答弁、教育指導課長。

【教育指導課長】

ご質問にお答えをいたします。今、中学校といったところの視点で議員の方をご質問いただきましたが、義務教育、小学校の1年生から発達の段階に応じて様々な学びを展開しています。小学校の低学年でいえば、まずは学校の周り、身の周りの地域のことを知るというようなところから進めていっているところです。

それがやがては学区の地域から庄原全体にというようなところの学びの内容も広げていくわけですが、状況によっては自分の地域、学区のことしか知らないというような子どももこれまでもいますし、今後はそういった視点に立ったときにですね、例えば自分の地域以外のところでこういった歴史

的な価値のあるものがあるということを知っていく、そういうことも大変有意義なことだと思いますので、そういったところで子どもたちが学校を離れて、違う他地域の子どもたちと交流をするとか、学びを共有していくとか、そういったところについてはしっかり実現するためにどういった工夫ができるのかということは、引き続き検討していきたいというふうに考えております。

【桂藤議長】

堀内富夫議員。

堀内富夫議員

まさに自分もそれを思っているところでありまして、同じ自分が住んでいる地域にずっと留まっていては、なかなか自分が今享受しているこの環境の良さというものがなかなか理解できないものがあったりします。一度外に出てしまえば、自分の故郷の素晴らしさというか、どれだけ恵まれていたかというところがやっとわかるというところも、自分も一回外に出て感じているところがありますので。

小学校段階ではなかなかちょっと難しいところがあるかもしれませんが、中学校段階になりますと、自分たちがその小学校6年間で培ってきたもの、それを持って一度外に出て、自分のところを、故郷ですね、振り返って見てみたときに、これだけの宝があったんだという感じで気づくことができるという可能性もまた秘めているのではないかというふうに感じております。

したがって、その中学校については、ある程度の、今度は人と人とのぶつかり合いといいますか、そのあたりの研鑽の仕方というのも考慮したやり方というのも必要になってくるのではないかなというふうに考えております。そのあたりを考慮して今後どのように議論をされていくのか、もし今の段階で考えございましたらお聞かせください。

【桂藤議長】

答弁、教育指導課長。

【教育指導課長】

はい、ご質問にお答えをいたします。議員おっしゃるように、いわゆる人同士のつながり、交流というようなところの視点のご質問です。現在、中学校でいえば7校ございますが、市内、教育委員会主催で様々な取り組みも行っております。例えば、中学生を対象にした意見発表会であるとか、合唱コンクールであるとか、教育フォーラムの中での交流であるとか、駅伝大会だったりとか、そういった様々な行事等を通して子ども同士がつながっていくといった視点はとても大事だというように思っております。

同年代の子どもたちがお互いの多くのことを知ったり、まずはその相手のことを知ったりというようなところは非常に重要だというように思いますので、そういった行事活動を通して、また時間を共有する中で好意を深めていく、そういったところから新たな人間関係を構築したり広げていくという視点は大変重要だと思います。

【桂藤議長】

（聴取不能：粗起こしでは「堀内市長、堀内市長、堀内市長」と認識。堀内富夫議員の指名と見られる）

堀内富夫議員

はい、ぜひですね、周りの環境には素晴らしいものが整っており、それを教育の資源として使うことというのは既に行っていらっしゃるところであると思いますけれども、人口が減ってきて、人が少なくなってきて、できることが少なくなっている、そういったところに子どもたちががっかりすることがないような施策というのをぜひ考えていただきたいなというふうに考えております。それでは次の質問に移ります。

---

3. 小規模特認校制度などの活用による「選ばれる学校」への発展

堀内富夫議員

小項目3番目、特色ある教育を希望する児童生徒が通学区域を超えて学ぶことができる小規模特認校制度などを活用し、小規模校を地域にある学校から、特色ある教育によって選ばれる学校へ発展させる可能性について調査研究する考えがあるかをお伺いします。

【桂藤議長】

答弁、教育長。

【牧原教育長】

ご質問にお答えします。小規模特認校は、小規模校を中心に特色ある教育活動を展開し、市内全域から通学区域に関係なく就学を認める学校のことを言います。

本市の場合、ほとんどの学校が自然豊かな環境にある小規模校であり、それぞれがこれまでの取り組みの成果や課題を検証しつつ学校教育目標を掲げ、常に庄原で学んでよかったと思える教育となるよう様々な取り組みを行ってきており、あえて特任区を設置する必要はないと考えています。

本市の取り組みの特徴は、豊かな心を育むことを土台として、知力、体力を向上させることはもちろんのこと、いつどこにいても、どのような環境の中にあっても、ふるさと庄原の学びや体験が心の支えとなり、原動力となる教育の創造に努めていることです。こうした取り組みによって、児童生徒が学校という集団の中でそれぞれ持っている力をより一層伸ばし、生きる力の基礎を培い、中学校卒業時には自分の意思で、自分の力で進路選択できるようにしています。

激しく変動する社会や学校状況、児童生徒に育成する資質能力、あるいは将来の姿などを鑑み、児童生徒にとっての学校教育はどうあるべきか、引き続き様々な観点から検討を行ってまいります。

【桂藤議長】

堀内富夫議員。

堀内富夫議員

まさしく庄原市内、本当に豊かな自然のもと教育なされているところに関しては理解するところでございます。ただ一方で、どうしてもその人数が少ないからという理由で、お隣の三次市へ行ったりとかですね、比和で言いますと、比和から庄原中学校の方に行ったりとか、そういった現実があるのも事実であると思います。そういったところも含めてですね、もうちょっと広い視野でと言いますか、子ど

もたちの主体性を伸ばす観点からもですね、庄原市内であっても選べる学校であるというふうな特色を持たせることが可能かどうかというところについてお伺いいたします。

【桂藤議長】

答弁、教育指導課長。

【教育指導課長】

ご質問にお答えをいたします。先ほど教育長の答弁にもございましたとおり、現在市内の各学校はほとんどの学校が小規模校ということです。その中で、いわゆる規模によらず市内全ての学校が特色を出しながら教育活動に取り組んでいく、そういったところで自校の子どもたちがしっかり学びを深め力がつくようにということで、さらなる質を高めていくという取り組みを行っております。

学区を超えてどうかということではございますが、現在住んでいる地域の学校に指定校というような形でしています。実際に自由にといった場合になりますと、そういった保護者の送迎がどうなのかとか、そこの事情がどうなのか、あるいはそこの学校の生徒数が次年度どれぐらいになるのかによって教職員の配置等にも影響をしていきます。

そういったところを総合的に鑑みる中で、今の実情がどうかというようなところ、今後持続可能な学校とはどういうあり方なのかということをまさに今検討しておりますので、そういったところも含めて検討していくことは必要だというふうに考えております。

【桂藤議長】

堀内富夫議員。

堀内富夫議員

まさに今おっしゃっていただいたとおりですね、持続可能な教育環境というのを作っていかないといけないというふうに自分も感じております。本当にどこの地域を見てもですね、いわゆる小規模校になっているわけですけれども、そこの取り合いになってもしょうがないというところはあります。

ただ、地域ごとの学びというのもありますし、そこもどう担保していけばいいのかというところがあり、今各地域で攻め合いをして、何年か先に仕方なく一緒にしてしまおうかというところを私は一番危惧しているところであります。それであれば先手を打って、今のうちに対応策を考えないといけないのではないだろうかというふうには考えております。そのあたりについて、現時点で何か議論されていることがありましたらお伺いします。

【桂藤議長】

答弁、教育指導課長。

【教育指導課長】

ご質問にお答えをいたします。議員がおっしゃるとおりですね、子どもたちにとってどういった学校がいいのかというようなところについて、様々な視点で現在検討を重ねているところです。

まずは、学校というのは当然子どもたちのためにあります。子どもたちにとって本当に変化の激しい社会の中でたくましく生きていける、そういった力、いわゆる資質能力、知力だけでなく、徳育である

とか体力も含めてバランスの良い力をつけていく、子どもたちのためにあるものが学校です。

その中で、しっかりそういった資質能力育成が図れる環境にあるのか、それは規模のこともあります。そういったところ、あるいは学習の内容を含めながらですね、適正な人数の中で学びの質が深められるというのはどういった状況なのかといったところを、地域のことは当然ありますが、子どもたちを中心に考えたときにどうなのかといったこともしてもしっかり含めながらですね、現在検討を重ねているという状況にございます。

【桂藤議長】

堀内富夫議員。

堀内富夫議員

まさしく今おっしゃっていただいたとおりですね、とにかく学校という場所は、子どもたちがいかに学ぶか、子どもたちありきのものだと思っておりますので、じゃあ今の子どもたちがどういう学びを得れば将来社会に出たときに十分に活躍できるかというところ、そこは十分に中で議論されているところだとございます。

本当に昨今変化の激しい時代ですから、学校の中で学んだことが全て社会に出て通用するかというと、なかなか難しい時代になってきたかなというふうに思います。であれば、今の学校の役割というのは、大人になってからも学び続けないといけないという状態にありますから、いかに学び方を学ぶかという学校の在り方というふうなのを考えていかないといけないのかなというふうに思います。

そのためには、当然自分たちが住んでいるふるさと、これを大事にして育って、またこの町のために活躍してもらいたい、そういう思いはありますけれども、子どもたち自身がしっかり自分で考えて、大人になってからも学びを深めていけるような学びを提供できるような学校づくりをしていかないといけないなというふうに感じております。そういった意味で、この適正規模というところはしっかりと議論をしていかないといけないところだと思いますが、それについて今後またどのように議論を深めていくかという思いがございましたらお伺いしたいと思います。

【桂藤議長】

答弁、教育指導課長。

【教育指導課長】

ご質問にお答えをいたします。ちょっと繰り返しの中身になるかもしれませんが、現行の学習指導要領で示されております主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、現在各学校取り組みを進めているところです。

この中で、いわゆる対話的で深い学びというようにございます。対話的というのは様々な対話はございますが、実際に子ども同士の対話ということも当然授業の学びの中では必要になってくるところです。多様な価値に触れ、多様な意見に触れる中で、改めて自分自身に介して思考していくというようなところも、子どもたちにとっては大変授業の中では有意義な学びとなります。

繰り返しになりますが、学校は子どもたちのために、今後の社会の変化にしっかり対応していくといいますか、新たな価値を創造していける、どこにいてもこのふるさと庄原で育ち学んだ力が発揮でき、

自己実現ができる、そして自分の夢や目標に向かって進んでいける、そういった力を小学校の義務教育の段階から着実に確実につけていく、育成していくということが必要だと思いますので、そういった視点、論点も大事にしながら、引き続き検討を重ねていきたいと考えております。

---

4. 望ましい教育環境を第一とした複数の選択肢の比較検証

【桂藤議長】

堀内富夫議員。

堀内富夫議員

ぜひ本当に、子どもたち中心であり続ける学校であってほしいなというふうに願っております。続いて最後の質問に移ります。今後の学校の在り方を検討するにあたり、児童生徒にとってどのような教育環境が望ましいのかを第一に、将来の児童生徒数、教員配置、通学環境、施設の維持管理、地域との連携等について、複数の選択肢を比較検証する考えがあるかを改めてお伺いします。

【桂藤議長】

答弁、教育長。

【牧原教育長】

ご質問にお答えします。学校は児童生徒が生きる力の基礎を培うところであり、子どもたちの希望があり、互いに学び合いながら大きく成長できるところです。また、学校では個人及び共通の目標に向けて課題を乗り越えるため、学力、体力を高め、心を磨き、考え、悩み、議論し、力を合わせて前に進む生活を送ることができます。さらに、様々な活動や取り組みを通して成就感を味わうことや、失敗からも多くの学びができる場でもあります。

本年度、今後の学校の在り方について、教育関係者、保護者、学識経験者などで構成する庄原市立学校の在り方を考える会を設置し、意見交換を重ねながら検討を進めているところです。

検討に当たっては、子どもたちに求められる資質能力を育成できる学校及び子どもたちが学びたい、保護者が通わせたい学校を基本とする目指す学校の姿を描き、その実現に必要な教育環境を導き出し、庄原市立学校の在り方に関する基本的な考え方をまとめることにしています。

検討の過程では、本市の学校の現状と取り組み、これまでの成果や課題、児童生徒数の推移や教員配置の状況、主体的・対話的で深い学びを実現できる教育環境、それらを取り巻く諸状況の推移等を踏まえ、多面的な観点から検討を進めてまいります。

【桂藤議長】

堀内富夫議員。

堀内富夫議員

現在も庄原市の学校の在り方というところで議論をなされているところで、これがですね、本当に刻一刻と情勢が変わっている今の世の中ですから、スピード感を持ってこれに対応していかないといけないなというふうに感じております。

これが本当に適正規模でありますとか、生徒数のことでありますとか、もっと言えば庄原市の財政のことも含めて、将来を見据えてあらゆる方向から、先ほどおっしゃったように多面的な視点で考えていかないといけないというふうに感じております。そのため、結論はそう急いではいけないとは思いますが、一方で本当にスピード感を持って、じゃあ5年後10年後こういう形であれば今の良質な教育環境を維持できるというのを考慮した上で、早急に形を変えるといいますか、やり方を考えていかないといけないのかなというふうに考えております。そのあたりの進め方についてどのような考えをお持ちかお伺いいたします。

【桂藤議長】

答弁、教育総務課長。

【教育総務課長】

ご質問にお答えいたします。先ほどの教育長の答弁とも重なる部分がございます。今年度、庄原市立学校の在り方の検討を進めておるところでございますが、先ほどの教育長の答弁もございましたとおり、学校の在り方を考える会というのを設置いたしまして、その委員さんとの意見交換を踏まえながら、すでに第2回ほど会議の方を進めておるわけでございますが、庄原市の学校の良さと課題でありますとか、子どもに付き合わせたい力が含まれ、通わせたい学校の姿など、そういったものの意見を交換しておりまして、子どもたちに求められる資質能力を育成できる学校、子どもたちが学びたい、保護者が通わせたい学校というと基本にしながら、まずは目指す学校というのはどうあるべきかといったものを議論しまして、そのために必要な教育環境づくり、そういったものを考えながら学校の在り方を検討していきたいと思っておりますし、6月議員全員教育会の中でもご説明しましたとおり、今年度中にはそういった基本的な考え方は取りまとめをしていきたいというふうに考えておるところでございます。

【桂藤議長】

堀内富夫議員。

堀内富夫議員

もう全く難しい議論にはなってくると思うんですが、様々な観点で進めていっていただきたいというふうに思っております。この教育のアップデートというのは、本当になかなかすぐすぐ、じゃあ来年からこうしようとかっていうのは難しいところではあると思いますが、しっかりですね、義務教育、小学校、中学校の1年というのはとても重要な期間になっていると思いますので、スピード感を持って、ぜひ今後の庄原市の良質な教育環境の整備というところで進めていっていただきたいなというふうに感じております。

最後に改めてなりますが、この庄原で学ぶ意味、その庄原の子どもたちにとって最も良い学びというのは何であるのかというのをお伺いして終わりにしたいと思います。

【桂藤議長】

答弁、教育指導課長。

【教育指導課長】

ご質問にお答えをいたします。庄原の子どもにとっての価値のあるというか、意味のある学びとはというご質問ですが、いわゆる議員もご承知のとおり、学習指導要領に示されている教育内容、目標というのは、全国全ての一律の学校に対して設定をされているものです。ですから、教育の内容、学習内容というものは同じではありますが、その学習内容をよりよく理解させたりとか、子どもの実態に応じてどのような方法で、またどのような学びをさらに取り入れることによって深まるのかというところに各学校の実態があり、また学校経営のビジョンがあり、それを達成するための様々な研究の内容、研究次第等が入ってきます。

この庄原には、先ほどからも言われておりますとおり、豊かな自然であったり、地域の様々な人がいて、伝統的なものがあり、そういったことを大事にして育んできた歴史があります。そういった文化的な価値であるとか人にしっかり関わらせていくことによって、より良く目標を達成するための学びが深まっていくというように思いますし、そういったところを大切にする、そういった教育というのは引き続きやっていくということは必要だと思います。

ただし、自分の学の地域のことだけでなく、俯瞰的に庄原全体を見渡して、そういったところからの学びをよりよく提供できる、そういった学習指導もしっかり協議をして研究していく必要はあるというように思いますし、そういったところに向けて、子どもたちが本当に将来どこにいてもですね、社会の中でまた必要とされる、自己実現ができる、そういったところで実質能力がしっかり発揮できる子どもたちを育成するためにですね、そういった地道な読書活動であるとか、自分を表現していく場をしっかり計画的にというか定期的に設定をする中で自己表現もさせる、そういったところを総合的にまた意図的に取り組んでいきたいというふうに考えております。そういったところが庄原の教育をさらに前に進める取り組みになるというふうに考えております。

【桂藤議長】

堀内富夫議員。

堀内富夫議員

今おっしゃっていただいたとおりだと思います。本当に学習指導要領というものがありますから、より良い国民を育てる、より良い市民を育てる、そういった使命というのは当然あると思います。そんな中で、庄原市、人口が少ないというところを逆手にとってですね、いかにより良い人間をどう育てていくかというところを念頭においてですね、これからも庄原市の良質な環境を、教育環境というのをどんどん発展していただけたらと思います。以上で終わります。

【桂藤議長】

以上で堀内富夫議員の質問を終わります。この際、暫時休憩いたします。再開は午後1時50分といたします。

[音声終了]